

研究授業を通して

みなさんの意見をまとめました。今後の授業や考えるきっかけになれば幸いです。

6B 算数「円の面積」

○式と図とことば、この3つは常に関連付けて見える化しておくようにしておくことが望ましいのかなと思いました。

○自力思考の場面で意欲的・主体的に取り組んでいる姿があるからこそ、ゆさぶり発問でそれまでとは異なった視点を与えたり、子ども達の考えを整理したりするなど、45 分内での学習へのモチベーション継続の工夫や確実な知識・技能の定着を図りたいと思いました。

4A 算数「角と角度」

○児童中心に授業が進んでいた。板書の発表を聞くときには、前の方に行って聞いたり、2 人一緒に聞いたり、自由な雰囲気でした。また、子ども同士でつなげていた授業でした。

○「分度器を逆にすると紙を逆にして」という言葉の時、教師の介入があった方が、言葉と動作がつながっていくと思う。

○授業の最後にプリントがあり、それが解けたら終わりのシステムがいいなと思いました。最後「できた」という喜びで終わるの素敵です。

○改めて、子ども達の実態をしっかり把握しておいて、授業を仕組んでいけたらと先生の授業を参観して感じました。また、どこで考えをよりほりさげていくか、しっかりした教材研究が必要だと思いました。

○どこでつまづきそうか予想するのが教材研究で、もし自力で予想するのが難しいなら、学力テストの結果を参考にするのもいい方法だということを学んだ。

○“実態に合った授業”と一言と言っても難しいなと思いました。どんどん展開をしていく時間もあれば、学力差に応じてポイントをおさえたり練習したりする時間も必要だなと感じました。

○子ども達に説明、発表を任せるといふ姿勢の先生の姿がとても勉強になりました。出た意見をそのままにせず、子ども達にグループ分けをさせ、確認をするという流れの際、「どんなグループになったかネーミングをさせるとよい」という意見になるほどなと思いました。クラスの実態を考えて、発表の取り上げ方や算数の終わりの「ノルマ」を工夫されていることを知り勉強になりました。

4B 理科「雨水のゆくえと地面のようす」

○子ども達の発表に対してすぐ肯定も否定もせず、子ども達へ投げ返している。それは、子ども達にとって自分達で学びをつくることにつながります。

○教師が問うところと教えるところの見極めについて考えました。つつい教師が説明しすぎたり、切り返した方がいいところを流してしまったり・・・ 子ども達にどんな姿になってもらいたいかを考えながら、日々の授業に生かしたいと思います。

○泡と空気のちがいなど、自分だったらそのまま流しそうな所も、子ども達に何度も問い直していて、つながりを教師が意識することや言葉を大切にすることについて改めて気を付けていこうと思った。そのためにも、自分も「なぜだろう？」を大切にして興味があることを探求したいと思った。

○単元同士のつながり、子ども達の発言をつなげること、どちらも大切だと学びました。日常と結びつく、児童にとって興味・関心のある授業を創つていきたいなと思いました。

○目的のある寄り道は単元を見通しているからこそできると思った。単元をみとおしているからこそ、子どもの発言の聞き方が変わるんだと思った。

なかよし A 生活単元学習「収穫した野菜で調理をする」

○児童が興味をもつような教材を選ばれていたなので、集中が続いたのだと思いました。

○子ども達がいきいきと活動していたなと思いました。子どもたち一人一人のことを考え、様々な方法で発表する場を設けていていいなと感じました。

○いろんな子がいる中で、個々の苦手なことをみんなでホローしていく活動を、わがクラスで取り入れていきたいなと思いました。本人が苦手だと思っていることが少しでもできるようになったと認め合える集団がすばらしいと思いました。認め合えるから、本人の自信へとつながると思いました。

○複数の学年が一緒に学習しているからこそ、縦の関係を見ることができました。上の学年が下の学年に教えてあげる。下の学年が思ったことを言葉にし、みんなで考える。交流のクラスの時とまた違った様子を見ることができました。子ども達のもっている力を知り、自分の力を発揮できる授業を展開していきたい。

提案

①教師の役割・・・授業参観者＝学びづくりの参加者という意識に変えてみてもいいのではないのでしょうか？

いつも、授業者の役割を考えていますが、参観者の役割は？と改めて疑問に思い、柳生先生の授業の中で、子どもと一緒に学ぼうとしてみました。すると、ある2人の児童が寄ってきて、「これってどういうことですか？」と聞いてきたので、答えではなく、ヒント？考えるきっかけ？を伝えてみた。すると、その後自分たちが疑問に思っていたことに対する答えが見つかったようで、最後には発表を頑張っていた。

この姿から、教えるプロがたくさんいるという素敵な状況（研究授業）を活用することで、多くの子ども達にとってプラスの効果があるのでは？つまり、【チーム南】で子ども達と学びを創っていく。

②教材研究について

5 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年告示）国語第○学年及び第○学年の（思考力、判断力、表現力等）●の指導事項「△ ～……（指導事項をそのまま抜き出す）……～こと。」を受けて設定している。

「～……～」力を育成するには、～……～ことが必要となる。

本単元で扱う「（教材名）」は、～……（育成しようとする資質・能力からみた特質）……～である。

※ 教材の内容分析、既習事項との関連などについて、身に付けさせたい力に沿った観点から書く。（この教材によってどのような力を身に付けさせようとしているのか、教材そのものの価値を浮き彫りにし、身に付けさせたい力を育成するのに適した教材であることを書く。）

(2) 児童観

本学級の児童は、～

※ 児童の実態から単元を構想するという考え方に立ち、児童の実態を具体的に書く。どこまでできているのか、どこにつまずいているのか、なぜつまずいているのか（同系統の前単元などではどのような力を身に付けてきたのか。又、さらに身に付けたい力はどのようなものなのか。）を分析することで、指導の手立てにつなげる。

(3) 指導観

指導に当たっては、～。

※ 身に付けさせたい資質・能力を育成するための具体的な指導の工夫（手立て）について記述する。

6 単元の目標

○ ～……（指導事項を抜き出し文末を変える）……～することができる。

〔知識及び技能〕（○）

△

○ ～……（指導事項を抜き出し文末を変える）……～することができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕●（○）△

○ 言葉がもつよさを～……～伝え合おうとする。

〔学びに向かう力、人間性等〕

A 単元観（素材研究） B 児童観 C 指導観

学習指導案を書いていたときは、必ずあった上の3つ。今年度の福山市は子ども主語、教材主語とあるように、ABを大切にしたいうえで、Cへという考えが強いように感じる。

また本校の教材研究は、A教材理解を深めることが中心になっている感じがする。その為、今後Bの子どもの実態を共有したうえで、Aの教材研究をすることで、Cのどのように指導しようかにつながっていくのではないかな？